

書評

福居顯二，井上和臣，河瀬雅紀 編

うつ病

知る，治す，防ぐ

切池信夫

今，社会でうつ病が毎日どこかで話題になっている。何せ 2020 年には，多い 10 大疾患の第 1 位が心疾患，第 2 位にうつ病という WHO の予測があり，今後もますますの増加が見込まれている。さらに自殺者が年間 3 万人を下らない現況において，うつ病対策が急務の 1 つとなる。

このような状況を反映してか，うつ病に関する出版も多い。一般人を対象としたものから専門家まで，その内容はさまざまである。その中で本書は，精神科医をはじめ内科医，看護師や心理士，大学院の学生まで広範な読者層を対象に，うつ病の成因，診断，さまざまなうつ病の臨床像とその治療法，リハビリテーションや予防について明瞭簡潔でわかりやすく書かれ，バランスのとれたうつ病理解のための教科書となっている。京都府立医科大学の福居教授をはじめとして，同大の同門の先生方の日頃からのご努力の成果がここに結実している。

本書は，A5 判の 200 頁とコンパクトな仕上がりであるが，目次もきめ細かく配慮されており，その内容がわかりやすい。そして，その内容はうつ病に関して包括的で，各種情報が網羅

されている。特に「世代によるうつ病」「種々のうつ病」「うつ病と他の精神疾患との comorbidity」など，うつ病の多面性を説明し，さらにうつ病像の時代的变化についても述べられている。治療に関しては，薬物療法に加えて精神療法も明瞭簡潔に述べられ，特に日常臨床で最もよく用いる支持的精神療法についてもわかりやすく説明されている。そして，今話題の認知療法や対人関係療法もわかりやすく説明されており，これを入り口にしてさらに専門書へと進むこともできる。さらにうつ病のリハビリテーション，うつ病の予防とストレス・マネジメントなどが説明されている。

どの科に進んでもうつ病患者を避けられない時代において，研修医をはじめプライマリ・ケア医，その他うつ病の理解が必要なコメディカルスタッフの方々，さらには精神科医の入門書として，本書の裨益するところは大きいものと思われる。

(大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学)

●A5 216 頁 2009 定価 3,990 円(本体 3,800 円+税) 金芳堂